資料２

令和２年度　板橋区環境教育カリキュラム部会 活動報告

１　令和２年度の活動経過

日 程	活 動 内 容		
７月	板橋区環境教育カリキュラム部会委員の推薦依頼及び決定		
８月３日	第1回	・今年度の活動方針の確認 ・テキスト「未来へ」を活用した授業実践の内容及び日程の検討	
９月２日	第2回	・環境教育に関わる指導事例や情報交換 ・第１回実践授業指導案検討	
９月２３日	第3回	○環境教育実践授業 授業者　板橋区立上板橋第一中学校 山田　祥吾　教諭 第９学年　家庭科 「生活と環境の関わり」	・実践授業について協議 ・次回実践授業の授業内容検討 ・生徒の変容や成果検証についての検討
１１月２日	第4回	○環境教育実践授業 授業者　板橋区立緑小学校 小松　拓野　教諭 第６学年　理科・総合的な学習の時間 「自然災害と共に生きる私たち」	・実践授業について協議 ・次回実践授業の授業内容検討 ・学校や地域の特色を踏まえた指導計画の検討
１１月２０日	第5回	○環境教育実践授業 授業者　板橋区立新河岸幼稚園 阿部　菜々　教諭 幼稚園　４・５歳児 「秋の自然に興味・関心をもつ)」	・実践授業について協議 ・次回実践授業の授業内容検討 ・幼児が自然と触れ合う中で、環境について興味・関心を深める。
１２月１８日	第6回	○環境教育実践授業 授業者　板橋区立下赤塚小学校 桑島　孝博　主幹教諭 第５学年　社会科 「わたしたちの生活と森林」	・実践授業について協議 ・次回実践授業の授業内容検討 ・学校生活において、生徒にＳＤＧｓを意識させる取組について
１月２９日	第7回	○環境教育実践授業 授業者　板橋区立高島第一中学校 徳田　千了　教諭 第９学年　理科 「エネルギー資源の利用」	・実践授業について協議 ・今年度の授業実践の成果と課題

２　授業実践報告

（１）　令和２年９月２３日（水）　上板橋第一中学校　＜テキスト未来へ３　2・4・１１　＞

学年・単元名 〔環境を捉える視点〕	第９学年　家庭科「生活と環境の関わり」〔循環・有限性〕
本時の目標	これまでに学習した食・衣・住・消費分野それぞれが抱える問題や取り組みなどをもとに、自分の生活を振り返ることで課題を見いだし、それに対する解決策や行動目標、行動計画を考えることで積極的に環境問題へ取り組む態度を身に付ける。
環境教育の視点を位置付けた活動	生活の中の「衣食住」に関する課題に対して、自分たちが実践することができる解決策を考え、ワークシートにまとめる。 【環境に働きかける実践力】 発見した自身の生活の課題を改善するための具体的な行動目標及び行動計画を立案し、実践的な行動につなげることができる。
成果と課題	○自分の生活を振り返り、課題や今日から工夫できることを一所懸命考えていた。 ●自分たちの生活と、環境問題を結び付けやすくするために、事前に生徒への生活のアンケートを実施するとよかった。生徒たちの現状や等身大の環境に対する意識がより授業内に出てくるようにしたい。

（２）　令和２年１１月２日（月）　緑小学校　＜テキスト「未来へ２」　１４　＞

学年・単元名 〔環境を捉える視点〕	第６学年　理科・総合的な学習の時間「自然災害と共に生きる私たち」 〔共生・保全〕
本時の目標	グループ同士で発表し合うことで、適切に調べて分かりやすくまとめることができているか確かめ、発表の準備をする。
環境教育の視点を 位置付けた活動	自然災害の内容や状況を踏まえ、災害に備えること、災害被害の未然防止、災害後の復旧や支援について、話し合いながら資料を整理する。 【問題解決に必要な技能】 提案する目的や内容を明確にし、ＩＣＴを活用しながら情報収集した資料を発表に向けてまとめている。
成果と課題	○自然災害や防災というテーマから、どのように災害と向き合うかを考えることで、ＳＤＧｓの根本的な理念である「持続可能な取組」について、児童に意識させることができた。 ●発表資料を作ることに時間がかかることや、インターネットからの災害の写真の肖像権などについて、情報モラルを徹底する必要がある。資料の作成枚数も例えば「５枚」と制限すると、児童が内容や構成をより精査するようになる。

（３）　令和２年１１月２０日（金）　新河岸幼稚園　＜テキスト「未来へ１」　1　＞

学年・単元名 〔環境を捉える視点〕	幼稚園　４・５歳児　「秋の自然に興味・関心をもつ(壁飾り作り)」〔共生〕
本時の目標	今までに集めた落ち葉や木の実等を使って、自分なりの壁飾り作りをすることを楽しみ、また、友達の作品の良さに気付き、伝えようとする。
環境教育の視点を 位置付けた活動	木の実の種類、落ちていた場所や自分が集めてきた落ち葉や木の実等のこと、遊びに使ってきたことを思い出し、教師や友達に伝えようとする。 【環境に対する知識・理解】 自分の知っていることや感じたことを振り返ったり、言葉にしたりしながら友達に伝えることができる。
成果と課題	○幼児が最後まで集中していた。木の実や落ち葉など材料が豊富に計画的に用意されていた。幼児が作品を作る「ＡＣＴ」で、自然が織り成す形や色に注目するようになっていた。まさに、自然と対話する幼児の姿が素晴らしかった。 ●作品を作る中で、互いに教え合う場面が見られたが、完成した作品を改めて全員で鑑賞し、自然の材料からできた作品を味わう時間「ＦＥＥＬ」を設けられなかったことに反省が残った。

（４）　令和２年１２月１８日（金）　下赤塚小学校　＜テキスト「未来へ２　3　＞

学年・単元名 〔環境を捉える視点〕	第５学年　社会科　「わたしたちの生活と森林」〔循環・保全〕
本時の目標	資料を活用して森林のもつ多様な機能について調べ、自分たちの生活と森林のつながりを考えることを通して、森林のもつ働きについて理解することができる。
環境教育の視点を 位置付けた活動	もしも、森林が失われると、産業や私たちの生活にどのような困ったことが起こるのか考え、話し合う。また、森林が失われた事例を調べ、森林がどのような立場の人にとって大切か考える。 【環境に対する思考・判断・表現】 森林が失われた場合、私たちの生活や既習の産業にどのような影響があるかを考えることができる。
成果と課題	○児童から出される疑問に合わせて、テキスト「未来へ」を始め、教科書や補助資料を提示していた。そのことで、「森林がなくなったとき」の影響について、児童がいつの間にか自分の問題として考え、「ＴＨＩＮＫ」の活動につながった。 ●森林の割合を示すデータの数値が教科書と異なっていた。また、児童が考えを整理する場合に「私たち」「農業」「工業」「漁業」に分類していた児童と、していない児童がいた。キーワードで分類すると、主語が決まるので考えがまとめやすい。

（５）　令和３年１月２９日（金）　高島第一中学校　＜テキスト「未来へ３」　7・8　＞

学年・単元名 〔環境を捉える視点〕	第９学年　理科「エネルギー資源の利用」〔有限性・循環〕
本時の目標	白熱電球と手回し発電機を使って、安定した電気エネルギーを作る大変さを体験する。ＬＥＤ電球との比較をし、環境に与える影響を考え、生活の中でできる電力の使い方を考える。
環境教育の視点を 位置付けた活動	１００Ｖ白熱電球は、４人のそれぞれの手回し発電機を回して、ようやく発電することができる大変な印象をもたせる。 【環境に働きかける実践力】 実験を基に発電の規則性を判断し、自分たちの生活に生かすことができる。
成果と課題	○白熱球とＬＥＤの発熱量や発電に必要な電力の違いが分かりやすいように、手回し発電を実演したことで、電力を生産するためのエネルギーを実感することができた。 ●実験前に「予想」の時間をしっかり設定すると、生徒の思考がさらに深まった。白熱球とＬＥＤを比較する際、「熱」「価格」「生産」な、視点となるキーワードを示すと、より生徒が考えたり、交流しやすかったりした。

３　授業者の振り返り

・生徒が自分自身の生活や行動を振り返り、環境とのつながりを考えていた。中学校の家庭科では「環境」をテーマにした場合、第１学年から第３学年までを貫いた単元構築が難しいと感じていたが、実践してみて、単元配列を工夫することができると感じた。
・多くの児童は「ＳＤＧｓ」という言葉は知っている。具体的にどんなことなのかをイメージできている児童は少ない。その意味で、「防災」とＳＤＧｓを結び付けて考える授業が行えてよかった。児童たちのＳＤＧｓの捉え方も変わったと思う。
・「環境」について、どのように幼児に伝えていくかを考えた際、発達段階に応じて「幼児が自然と親しむ」ことに重点を置いて活動を組み立てた。また、数か月前から木の実や枝などの材料を幼児と収集し、幼児が当日の活動を楽しみにするように、活動計画全体を工夫することができた。
　ＳＤＧｓの観点から、環境教育は幼稚園からの積み上げが大事だと感じた。
・授業づくりでは、事前実験で点灯すると思っていた「ＬＥＤ電球」が点かなかった。教材研究をするうちに、船などに使われる特殊ＬＥＤ電球の仕組みや構造について知り、教材研究が深まった。
・環境について、今の自分に何ができるかを児童や生徒が考えるようになった。
・授業では、「環境」について考えるデータ資料や写真を意図的に出すようにした。「どうしてこんな森林になったのだろうか。」「どこの場所なのだろうか。」など、児童が目的をもって資料から情報を読み取るようにした。児童が最後まで意欲的に「環境」について考える姿につながった。
・「未来へ」のデータが区内共有フォルダにあることを、定期的に学校に周知していくとよい。

４　今後の方向性

・今後、環境教育プログラム部会と環境教育カリキュラム部会の連携や統合を視野に、学校を始め、板橋区全体の環境教育を充実させていく（案）。
・現在、板橋区立小学校２校がユネスコスクール加盟校、小学校３校と中学校２校が加盟申請中である。それらの学校と連携し、ＥＳＤ及びＳＤＧｓの視点を踏まえた環境教育の実践について全校に周知・啓発していく。
・昨年度は、「自分ごととして捉えさせる」ということが課題となっていた。今年度は、各授業を通して「身近な生活場面や普段の自分の行動を見つめ、環境と向き合う」という大きなテーマが挙がった。
・「環境教育」について、単発的な授業時間ではなく、教科や単元全体を関連させる。
・授業後の児童・生徒の環境に対する意識の変化について明らかにし、環境に対する意識を持続させていく方法や計画を立てるとよい。
・「未来へ」の内容やデータ資料などの更新を検討していく必要がある。

５　板橋区環境教育カリキュラム部会の構成

	所　属	職　名	氏　名	学　年　教科
部会長	上板橋第一中学校	校長	長岡　直行	
部　員	上板橋第一中学校	教諭	山田　祥吾	家庭科
	高島第一中学校	教諭	徳田　千了	理科
	下赤塚小学校	主幹教諭	桑島　孝博	５年　（社会科）
	緑小学校	教諭	小松　拓野	６年　（理科）
	新河岸幼稚園	教諭	阿部　菜々	４歳児担当　桃組
事務局	板橋区教育委員会 板橋区教育委員会 板橋区教育委員会	指導室長 統括指導主事 指導主事	門野　吉保 山藤　知子 西山　英樹	